

第11回「女と男の一行詩」

賞
最優秀賞

「夢だった決まった決まった職場に男女の差」

入賞作品発表!!

将来の職業について考えているときに、夢と希望を持って入った職場に男女の差があると嫌だなという気持ちからこの詩を書かせてもらいました。賞を頂けて嬉しいです。

棚瀬千帆さん (高校生)



「女と男の一行詩」は、男女平等や性別による固定された役割の違いなどについて、日常の身近なところから短い言葉で表現することを通じて男女共同参画について考えていただくことを目的に2002年から実施しています。

今年度から応募の対象を十勝管内在住、通勤・通学されている方にしたところ、過去最多の1,290作品の応募がありました。一般投票と選考委員により6作品が入賞し、帯広市役所で表彰式が行われ、嶋野副市長から賞状と副賞が授与されました。

賞
優秀賞

できること 男と女じゃ違うけど
だから可能な 助け合い

大野 美希さん (高校生)

父と母 我が家の大事な 大黒柱

中山 雄登さん (小学生)

賞
入選

育メンと 流行る言葉に 感じる差

有安 友美さん (一般)

違います 女性は育児の プロじゃない

斉藤 巨哉さん (高校生)

父は母に感謝する 母は父に感謝する
僕はふたりに感謝する

菜原 惟信さん (高校生)

最優秀賞を受賞した棚瀬さんの作品は、学校で職業体験をしたときに感じた男女の差を一行詩にしたものです。今年度の入賞作品は、家族への思いやりや、育児が未だに一方への負担になっている現実などを思う小学生、高校生など若い世代の作品が入賞しています。

誰もが住みよい社会にするために、性別で役割を固定的に考えるのではなく、職場で、学校で、地域で今以上に男性と女性が協力し合うことが必要になってきています。

登録者
募集!

「帯広市女性
人材バンク」

帯広市では、各種審議会等の政策方針決定の場や講演会等に女性が参加出来る機会を増やし、その能力を発揮していただくため、候補者を登録した「帯広市女性人材バンク」を設置いたしました。

審議会や講演会等の主催者の方々に、様々な分野で活躍されている多くの女性の情報を適切に提供していきたいと考えています。

皆様の知識や経験を市政に反映させる絶好の機会です。自薦、他薦(本人の承諾必要)は問いません。専門的知識や技能をお持ちの方はもちろん市政に関心のある方、意欲のある女性の方、ぜひご登録ください。

申し込みは随時受け付けていますので、市のホームページ(※)からダウンロードした申込書に記入して男女共同参画推進課に郵送又は持参してください。詳しくは男女共同参画推進課までお問い合わせください。

※市HPで「女性人材バンク」と検索してください。

皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 FAX：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成25年3月発行

●発行 行：帯広市 男女共同参画推進課

●企画・編集：帯広市男女共同参画推進員

阿部千鶴子・小林 孝子

小野寺和子・棚瀬 寿子